

文化



磯田道史の

も今  
なまじり

題字・種村山童

京都をぶらぶらして聚雲堂とい  
う古書画屋に入り、何か面白いもの  
はないかとみていたら「木村重成  
黒髪に今際としめし空薫は 千代の  
香りと成りにけるかな 清綱」と書  
かれた短冊をみつけた。薩摩藩士・  
元老院議員・子爵黒田清綱という男  
がいる。洋画家黒田清輝の養父かつ  
伯父。筆跡からみて彼の自筆和歌短  
冊のように思われた。

「木村重成」は1615年の大坂  
の夏の陣で名を残した豊臣方の部  
将。絶世の美青年。討死しても見苦  
しくないよう自分の兜と黒髪に「空  
薫」という方法で香りを焚きしめて  
出陣。首をとられた。首実検の時、  
美しい彼の生首からは香薫が漂い、  
後世の語り草となった。短冊の和歌  
はそれを詠んだものらしい。

疑問がおきた。兜に香の薫りを焚  
きしめ、においをうつす、とは如何

「信繁」も加わり 兜に香



画・村上 豊

なることが。香の空薫を実験してみ  
たくなった。今年は大河ドラマで真  
田丸をやっている。そうだ。真田丸  
の主役・真田信繁(幸村)をやって  
いる堺雅人さんをよんで一緒に、豊  
臣方の部将の兜に香を焚きしめる実  
験をやろう。木村重成は真田丸の戦  
いでも活躍している。役作りがいい。

早速、志野流香道の若宗匠・蜂谷宗  
苾さんに連絡をとってみた。「あの  
う。香を兜に空薫で焚きしめる実験  
をやりたいのですが」。駄目でも  
ともとの頼みである。

奇跡がおきた。「やりましょう」。  
蜂谷さんはそういつてくれた。「東  
京の麻布十番に香雅堂という香木店  
があります。その店主にいつてお  
きます」。空薫は高価な香をたくさ  
ん焚くから香木店の協力が必要なよ  
うであった。堺雅人さんに連絡する  
と、好奇心が強く役作り熱心な彼  
から即座に「行くー」と返事がきた。  
信繁の兄信之の子孫真田家14代幸俊  
さんも来ることになった。

大河ドラマの収録は平日である。  
実験をやるなら土曜がいい。蜂谷さ  
んと私は土曜に香席をもうけること  
にした。丁度、私が原作の映画「殿、  
利息でござる」が完成したから、堺  
さんとその話もしたかった。本当は  
堺さんにもこの映画に出てもらっ  
て、スケート選手の羽生結弦さんと  
の夢の競演を実現してもらいたかつ  
たのだが、名優は忙しい。大河ドラ  
マと重なって実現できなかった。

その日がきた。兜は私が浜松の友  
人に借りた。真田信繁の鹿角の兜の  
複製である。蜂谷若宗匠、堺雅人さ  
ん、それに私と志野流香道のお弟子  
さんたちが集まった。皆、かたずを  
のんで実験を見守った。香雅堂さん  
がその兜の下に小さな香炉をおい  
た。伽羅の香木を兜の下から焚き、  
香氣をうつすという。高価な伽羅に  
火がつけられると、白い香煙が猛烈  
にあがった。座敷中に伽羅の香りが  
広がる。しかし、香木に直接火をつ  
け一気に焚いたから、香氣だけでな  
く焦げくさいにおいが混じってい  
る。香木を「焚いている」ではなく、  
香木が「燃えている」感じである。  
燃えきったところで兜を裏返して皆  
で、においをみた。

残念。こげくさい。たしかに伽羅  
の香りもするが、割り箸を燃やした  
ようなこげ臭いがある。「香氣は透  
明。白い煙が出ると焦げたにおいに  
なる」香雅堂さんが教えてくれた。  
実験は失敗だったが、「伽羅などの  
香木でなくむしろ練り香などで時間  
をかけてゆっくり香氣を兜にうつし  
ていったほうがよいのではないか」  
という結論になった。

そのあとで香の聞きあて競べをや  
ったが、20年以上、香道をやってい  
る人々を押しつけて一番になったの  
は堺雅人さん。彼は初めて香を聞い  
たという。一芸の達人はずいもの  
だと思った。  
(日本史家)